

傾斜地、法面植栽に適したグラウンドカバー・プランツの選定と植栽法							
<p>[要約] 傾斜地、法面の保護・緑化に適したグラウンドカバープランツとして早期被覆ができ、景観形成能力の高い7種を選定した。</p> <p>これら有望種について、効率的な繁殖法及び適正な栽培用土や、地表面の早期被覆と高いエロ - ジョン防止効果が期待できる植栽密度を明らかにした。</p>							
三重県科学技術振興センター・農業技術センター・花植木センター・栽培担当					連絡先	0593-70-4977	
部会名	野菜・花き	専門	栽培	対象	緑化植物	分類	普及

[背景・ねらい]

カバープランツを中山間地域の傾斜地、法面に植栽することにより、土壌浸食の防止、雑草発生の抑制等の環境保全機能が期待されているが、多種のカバープランツについて、有効な種類とその特性等は明らかとなっていない。

そこで、早期被覆効果が期待でき、景観形成能力の高いカバープランツの選定を行い、その効率的増殖、養成法等を明らかにし、現地における植栽方法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. カバープランツ28種類を被覆面積増加比、株数増加比、被覆率及び景観形成能力など総合評価すれば、アークトセカ、コグマザサ、セキショウ、ピンカ・マジョール、フッキソウ、ヘデラ・カナリエンス、リュウノヒゲの7種が有望である(表1. 有望種以外データ省略)。
2. アークトセカ、リュウノヒゲ、セキショウは株分け法、コグマザサは地下茎細断法、ピンカ・マジョール、フッキソウ、ヘデラ・カナリエンスは挿し木法により増殖が可能である(表2)。
3. 生育促進を図るための最適な基土として、コグマザサは黒ボク、フッキソウは黒ボク又は山砂、ヘデラ・カナリエンスは黒ボク又は赤土である。アークトセカ、セキショウ、ピンカ・マジョール、リュウノヒゲは比較的土壌の種類を選ばない(表2)。
4. 早期に地表面を被覆する種類は、エロ - ジョン防止効果が高い傾向である(表3)。
5. 被覆率の時期別推移から被覆タイプを分類すると、冬期低下急速回復型はアークトセカ、冬期低下緩慢回復型はセキショウ、ピンカ・マジョール、冬期安定漸増型はリュウノヒゲ、ヘデラ・カナリエンス、コグマザサ、フッキソウとなる(図1)。
6. 施工面での経済的な最適植栽密度はアークトセカが10株/m²、その他の種類は20株/m²以上必要である(表3)。

[成果の活用面・留意]

1. ジオテキスタイル等との組み合わせにより、中山間地帯の傾斜地、法面保護効果が増し、景観性向上が図れる。
2. 生育特性調査は三重県北勢地域の気象条件下によるもので、地域により生育、特に越冬性が異なると予想される。
3. 選定した種類の中でアークトセカ、コグマザサ、ピンカ・マジョールが安価である。

[具体的データ]

表1 . グラウンドカバープランツの生育と地面被覆率 (1996.12)

植物名	科名	草丈 cm	被覆面積 増加比*1	地上*2地下 部重g 部重g	T R 比	株数増 加比*3	被覆率 % *4
アークセカ	キク	17.0	8.3	235 91	2.58	10.1	100
コグマザサ	イネ	17.2	2.2	48 1035	0.05	7.7	100
セキショウ	サトイ	21.8	2.6	220 1805	0.12	6.0	90
ピンカ・マジヨール	キョウチクトウ	11.5	8.8	1070 1550	0.69	1.5	100
フッキソウ	ツグ	19.7	2.3	148 212	0.70	4.3	100
ハデラ・カリエンシス	ウキ	22.5	28.6	490 315	1.56	1.4	100
リュウビゲ	リ	9.8	3.0	245 290	0.84	6.7	100

* 1 定植時 (1995.7) の被覆面積に対する増加比 * 2 株あたり重量
 * 3 定植時の株数に対する増加比 * 4 植栽18カ月後の地表面被覆率
 注 - アンダーライトは特に優れる項目。有望種以外の平均被覆率は76.3%

表2 . 有望グラウンドカバープランツの増殖法と培地 (1997~1998)

植物名	増殖方法	用土適応性*1		
		黒	赤土	山砂
アークセカ	株分け (ランナー切断)			
コグマザサ	地下茎細断 (冬期3節伏込み)			
セキショウ	株分け (3, 4月分け)			
ピンカ・マジヨール	挿し木 (2, 4月挿し)			
フッキソウ	挿し木 (4, 5月挿し)			
ハデラ・カリエンシス	挿し木 (2, 3月挿し)			
リュウビゲ	株分け (根部1/2切断処理)			

* 1 : 適、不適。 用土 - 各基土 2 : ピート土 1 : パーライト 1、総N量 0.8 g / 株施用

表3 . 現地(亀山市)法面における有望グラウンドカバープランツの植栽方法(1997~1998)

植物名	最適植栽 密度	被覆 日数*1	IQ-ジ ン指数*2	資材費 円 / m ²	備考
アークセカ	10株 / m ²	60日	1.0	1000	冬期地上部枯れ
コグマザサ	20株	150	1.5	1700	常緑性
セキショウ	30株	200	3.0	3000	夏冬期乾燥害
ピンカ・マジヨール	20株	200	2.5	1800	冬期下葉落葉
フッキソウ	20株	230	1.5	2000	夏期葉焼け症状
ハデラ・カリエンシス	20株	160	1.5	2400	冬期紅葉
リュウビゲ	30株	120	1.5	2100	常緑性

* 1 : 被覆日数
被覆率80%に達する
までの日数
* 2 : IQ-ジ
ン指数
1 - 表土流出無。
2 - 表土流出少。
3 - 表土流出。
4 - 礫が露出。
5 - 礫流出。

定植 : 1997.4/30 肥培管理 : I B ワンス 1 個 / 株

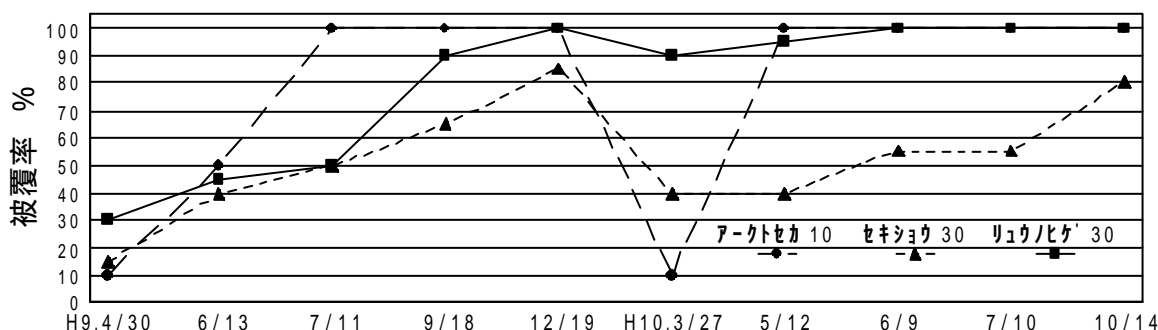


図1 . 現地(亀山市)法面における有望カバープランツの被覆率の推移

研究課題名 : 中山間地帯における新規地域特産作物育成のための生産技術と傾斜地の多目的
環境保全整備技術の開発

予算区分 : 国補

研究期間 : 平成10年度 (平成7~11)

研究担当者 : 内山達也、鎌田正行、中野直